

頁	訂正箇所	誤	正																																							
17	23～24行目	入り込むようにすればよく密着できる。	入り込むように <u>しなければならぬ。</u>																																							
25	27行目	蛇紋岩風化土・温泉余土	蛇紋岩風化土、温泉余土																																							
44	下から11行目	均一な支持地盤を与えるとともに、	均一な支持 <u>基盤</u> を与えるとともに、																																							
48	表2-25	表中2箇所 鉄鋼	<u>鉄網</u>																																							
64	下から3行目	発揮されているかを照合するために	発揮されているかを <u>照査</u> するために																																							
65	表2-40 図2-39	地表面型沈下計 深層形沈下計	地表面沈下計 深層沈下計																																							
91	下から5行目	路盤の地盤反力係数	路盤の <u>支持力</u> 係数																																							
207	9行目	(3.5.5参照)	(3.5. <u>1</u> 参照)																																							
234	3行目	平成18年10月に施行	平成18年 <u>4</u> 月に施行																																							
288	(3)以下 2～3行目	主任技術者又は管理技術者の氏名等を	主任技術者又は <u>監理</u> 技術者の氏名等を																																							
593	表9-21	<p>表9-21 リバース工法の留意事項</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>留意事項</th> <th>内容又は方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">掘削準備</td> <td>ケーシングチューブの長さ</td> <td>ケーシングチューブの必要長さは、揺動バンドの締めしろを含め掘削長+1m以上とする。ケーシングチューブは、6mのものが標準である。ケーシングチューブの組合せは、標準チューブを順次継ぎ足し、最後に短尺のものを使用して支持層深さの変化に対応させる。</td> </tr> <tr> <td>ケーシングチューブの点検</td> <td>ケーシングチューブは変形のひどいもの、又は、ロックピン孔が摩耗して楕円になっているものはロックピンが破損し易く、脱落したりするので使用してはならない。</td> </tr> <tr> <td>カッティングエッジ径の確認</td> <td>カッティングエッジ外径は、設計径と一致しているか必ず検尺しなければならない。刃先の摩耗したものは肉盛溶接して修復する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">掘削準備</td> <td>ハンマグラブの選定</td> <td>ハンマグラブシェルは、ケーシングチューブ内径より40～80mm小さく、地質に適合したものを使用する。</td> </tr> <tr> <td>ハンマグラブの予備</td> <td>ハンマグラブは、損耗が激しいので必ず予備を準備しておく。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">掘削機の据付け</td> <td>杭心位置の確認</td> <td>掘削直前に杭心の位置を再確認する。</td> </tr> <tr> <td>掘削機の据付け</td> <td>据付けの水平性は、施工の能率と精度に影響するので十分注意する。 作業中にも傾かないように注意する 作業中にも傾かないように注意する</td> </tr> <tr> <td>施工機械の配置</td> <td>掘削土砂の排出、鉄筋のつり込み、コンクリート運搬車の進入路などの施工スペースを十分確保する。</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	留意事項	内容又は方法	掘削準備	ケーシングチューブの長さ	ケーシングチューブの必要長さは、揺動バンドの締めしろを含め掘削長+1m以上とする。ケーシングチューブは、6mのものが標準である。ケーシングチューブの組合せは、標準チューブを順次継ぎ足し、最後に短尺のものを使用して支持層深さの変化に対応させる。	ケーシングチューブの点検	ケーシングチューブは変形のひどいもの、又は、ロックピン孔が摩耗して楕円になっているものはロックピンが破損し易く、脱落したりするので使用してはならない。	カッティングエッジ径の確認	カッティングエッジ外径は、設計径と一致しているか必ず検尺しなければならない。刃先の摩耗したものは肉盛溶接して修復する。	掘削準備	ハンマグラブの選定	ハンマグラブシェルは、ケーシングチューブ内径より40～80mm小さく、地質に適合したものを使用する。	ハンマグラブの予備	ハンマグラブは、損耗が激しいので必ず予備を準備しておく。	掘削機の据付け	杭心位置の確認	掘削直前に杭心の位置を再確認する。	掘削機の据付け	据付けの水平性は、施工の能率と精度に影響するので十分注意する。 作業中にも傾かないように注意する 作業中にも傾かないように注意する	施工機械の配置	掘削土砂の排出、鉄筋のつり込み、コンクリート運搬車の進入路などの施工スペースを十分確保する。	<p>表9-21 リバース工法の留意事項</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>留意事項</th> <th>内容又は方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">掘削準備</td> <td><u>スラッシュタンクの位置、容量</u></td> <td><u>スラッシュタンクの位置、容量などを確認する。最小限度、杭1本の掘削量に対して1.5倍以上の容量が必要である。孔内水に対する不測の洩水対策として補給用ポンプ、予備の貯水槽があるか確認する。</u></td> </tr> <tr> <td><u>スタンドパイプの径、長さ</u></td> <td><u>地下水位よりスタンドパイプ天端までは2.5m以上とする。</u></td> </tr> <tr> <td><u>使用機械、ビットなどの選定</u></td> <td><u>使用機械は土質や杭径を考慮して選定する。ビット外径は設計径と等しいかを確認する。ビット形状は土質を考慮して選定する。</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">掘削機の据付け</td> <td>杭心位置の確認</td> <td>掘削直前に杭心の位置を再確認する。</td> </tr> <tr> <td><u>スタンドパイプの鉛直性</u></td> <td><u>鉛直性はトランシット、下げ振りなどで確認する。</u></td> </tr> <tr> <td><u>ロータリテーブルの据付け</u></td> <td><u>ロータリテーブルは、スタンドパイプの上に据付けてはならない。別に据える作業台等をしっかり固定する。据付け時、杭心とのずれがなく水平かどうか確認する。</u></td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	留意事項	内容又は方法	掘削準備	<u>スラッシュタンクの位置、容量</u>	<u>スラッシュタンクの位置、容量などを確認する。最小限度、杭1本の掘削量に対して1.5倍以上の容量が必要である。孔内水に対する不測の洩水対策として補給用ポンプ、予備の貯水槽があるか確認する。</u>	<u>スタンドパイプの径、長さ</u>	<u>地下水位よりスタンドパイプ天端までは2.5m以上とする。</u>	<u>使用機械、ビットなどの選定</u>	<u>使用機械は土質や杭径を考慮して選定する。ビット外径は設計径と等しいかを確認する。ビット形状は土質を考慮して選定する。</u>	掘削機の据付け	杭心位置の確認	掘削直前に杭心の位置を再確認する。	<u>スタンドパイプの鉛直性</u>	<u>鉛直性はトランシット、下げ振りなどで確認する。</u>	<u>ロータリテーブルの据付け</u>	<u>ロータリテーブルは、スタンドパイプの上に据付けてはならない。別に据える作業台等をしっかり固定する。据付け時、杭心とのずれがなく水平かどうか確認する。</u>
		作業内容	留意事項	内容又は方法																																						
掘削準備	ケーシングチューブの長さ	ケーシングチューブの必要長さは、揺動バンドの締めしろを含め掘削長+1m以上とする。ケーシングチューブは、6mのものが標準である。ケーシングチューブの組合せは、標準チューブを順次継ぎ足し、最後に短尺のものを使用して支持層深さの変化に対応させる。																																								
	ケーシングチューブの点検	ケーシングチューブは変形のひどいもの、又は、ロックピン孔が摩耗して楕円になっているものはロックピンが破損し易く、脱落したりするので使用してはならない。																																								
	カッティングエッジ径の確認	カッティングエッジ外径は、設計径と一致しているか必ず検尺しなければならない。刃先の摩耗したものは肉盛溶接して修復する。																																								
掘削準備	ハンマグラブの選定	ハンマグラブシェルは、ケーシングチューブ内径より40～80mm小さく、地質に適合したものを使用する。																																								
	ハンマグラブの予備	ハンマグラブは、損耗が激しいので必ず予備を準備しておく。																																								
掘削機の据付け	杭心位置の確認	掘削直前に杭心の位置を再確認する。																																								
	掘削機の据付け	据付けの水平性は、施工の能率と精度に影響するので十分注意する。 作業中にも傾かないように注意する 作業中にも傾かないように注意する																																								
	施工機械の配置	掘削土砂の排出、鉄筋のつり込み、コンクリート運搬車の進入路などの施工スペースを十分確保する。																																								
作業内容	留意事項	内容又は方法																																								
掘削準備	<u>スラッシュタンクの位置、容量</u>	<u>スラッシュタンクの位置、容量などを確認する。最小限度、杭1本の掘削量に対して1.5倍以上の容量が必要である。孔内水に対する不測の洩水対策として補給用ポンプ、予備の貯水槽があるか確認する。</u>																																								
	<u>スタンドパイプの径、長さ</u>	<u>地下水位よりスタンドパイプ天端までは2.5m以上とする。</u>																																								
	<u>使用機械、ビットなどの選定</u>	<u>使用機械は土質や杭径を考慮して選定する。ビット外径は設計径と等しいかを確認する。ビット形状は土質を考慮して選定する。</u>																																								
掘削機の据付け	杭心位置の確認	掘削直前に杭心の位置を再確認する。																																								
	<u>スタンドパイプの鉛直性</u>	<u>鉛直性はトランシット、下げ振りなどで確認する。</u>																																								
	<u>ロータリテーブルの据付け</u>	<u>ロータリテーブルは、スタンドパイプの上に据付けてはならない。別に据える作業台等をしっかり固定する。据付け時、杭心とのずれがなく水平かどうか確認する。</u>																																								

頁	訂正箇所	誤	正																																																																				
594	表9-21	<p>表9-21 リバース工法の留意事項（続き）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>留意事項</th> <th>内容又は方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">掘削</td> <td>ケーシングチューブの鉛直性</td> <td>ケーシングチューブの圧入深さが10cm以上になると修正は難しいので、鉛直性は、掘削の初期に確保しなければならない。</td> </tr> <tr> <td>ケーシングチューブの接続</td> <td>ロックピンは、揺動運動でゆるむことがあるので、全部を均等に十分締付けておく。</td> </tr> <tr> <td>ケーシングチューブの圧入深さと掘削深さの確認</td> <td>掘削は、揺動及び回転と上下運動を繰り返し、摩擦力を軽減しながら原則としてケーシングチューブ内で行う。</td> </tr> <tr> <td>孔内水位の管理</td> <td>地下水位以下の砂層の掘削で、特に被圧地下水があるときは、孔内の水位を低下させるポイリング現象が発生し地盤を乱すので注意を要する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">掘削中及び掘削完了直後</td> <td>孔内泥水</td> <td>表9-19参照</td> </tr> <tr> <td>土質の性状</td> <td>土質柱状図、サンプルとグラブがつかんできた土砂との比較。</td> </tr> <tr> <td>掘削深さの確認</td> <td>表9-19参照</td> </tr> <tr> <td>支持層</td> <td>表9-19参照</td> <td>表9-19参照</td> </tr> <tr> <td>掘削後又は鉄筋建込み時</td> <td>孔底沈殿物の処理</td> <td>沈積バケットにより処理する。孔内水と清水とを置換する。</td> </tr> <tr> <td>鉄筋組立て</td> <td>表9-19参照</td> <td>表9-19参照</td> </tr> <tr> <td>コンクリート打設</td> <td>表9-19参照</td> <td>表9-19参照</td> </tr> <tr> <td>全工事期間中</td> <td>表9-19参照</td> <td>表9-19参照</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	留意事項	内容又は方法	掘削	ケーシングチューブの鉛直性	ケーシングチューブの圧入深さが10cm以上になると修正は難しいので、鉛直性は、掘削の初期に確保しなければならない。	ケーシングチューブの接続	ロックピンは、揺動運動でゆるむことがあるので、全部を均等に十分締付けておく。	ケーシングチューブの圧入深さと掘削深さの確認	掘削は、揺動及び回転と上下運動を繰り返し、摩擦力を軽減しながら原則としてケーシングチューブ内で行う。	孔内水位の管理	地下水位以下の砂層の掘削で、特に被圧地下水があるときは、孔内の水位を低下させるポイリング現象が発生し地盤を乱すので注意を要する。	掘削中及び掘削完了直後	孔内泥水	表9-19参照	土質の性状	土質柱状図、サンプルとグラブがつかんできた土砂との比較。	掘削深さの確認	表9-19参照	支持層	表9-19参照	表9-19参照	掘削後又は鉄筋建込み時	孔底沈殿物の処理	沈積バケットにより処理する。孔内水と清水とを置換する。	鉄筋組立て	表9-19参照	表9-19参照	コンクリート打設	表9-19参照	表9-19参照	全工事期間中	表9-19参照	表9-19参照	<p>表9-21 リバース工法の留意事項（続き）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業内容</th> <th>留意事項</th> <th>内容又は方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">掘削</td> <td>孔壁崩壊防止対策（掘削速度）</td> <td>土質に応じた適正な回転数と掘削速度を確保する。掘削速度が速すぎると孔壁の崩壊や孔曲がりのおそれがある。</td> </tr> <tr> <td>掘削崩壊防止対策（水頭圧保持）</td> <td>孔内水位と地下水の差が2m以上あるか確認する。給水と排水のバランスはよいか確認する。</td> </tr> <tr> <td>孔壁崩壊防止対策（孔内水の比重）</td> <td>適正な比重は1.02～1.08とする。</td> </tr> <tr> <td>掘削孔の鉛直性</td> <td>重錘パイプや必要に応じ掘削孔に適合したスタビライザを用い、掘削時はケーリーバの鉛直性を確認する。掘削孔の鉛直性は超音波測定器により測定する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">掘削中及び掘削完了直後</td> <td>孔内泥水</td> <td>表9-17参照</td> </tr> <tr> <td>土質の性状</td> <td>土質柱状図、サンプルと吸いあげた泥水をろ過して得た土砂との比較。</td> </tr> <tr> <td>掘削深さの確認</td> <td>表9-17参照</td> </tr> <tr> <td>支持層</td> <td>表9-17参照</td> <td>表9-17参照</td> </tr> <tr> <td>掘削後又は鉄筋建込み時</td> <td>孔底沈殿物の処理</td> <td>サクシヨンポンプとトレミーを直結して吸いあげる。</td> </tr> <tr> <td>鉄筋組立前</td> <td>表9-17参照</td> <td>表9-17参照</td> </tr> <tr> <td>コンクリート打設</td> <td>表9-17参照</td> <td>表9-17参照</td> </tr> <tr> <td>全工事期間中</td> <td>表9-17参照</td> <td>表9-17参照</td> </tr> </tbody> </table>	作業内容	留意事項	内容又は方法	掘削	孔壁崩壊防止対策（掘削速度）	土質に応じた適正な回転数と掘削速度を確保する。掘削速度が速すぎると孔壁の崩壊や孔曲がりのおそれがある。	掘削崩壊防止対策（水頭圧保持）	孔内水位と地下水の差が2m以上あるか確認する。給水と排水のバランスはよいか確認する。	孔壁崩壊防止対策（孔内水の比重）	適正な比重は1.02～1.08とする。	掘削孔の鉛直性	重錘パイプや必要に応じ掘削孔に適合したスタビライザを用い、掘削時はケーリーバの鉛直性を確認する。掘削孔の鉛直性は超音波測定器により測定する。	掘削中及び掘削完了直後	孔内泥水	表9-17参照	土質の性状	土質柱状図、サンプルと吸いあげた泥水をろ過して得た土砂との比較。	掘削深さの確認	表9-17参照	支持層	表9-17参照	表9-17参照	掘削後又は鉄筋建込み時	孔底沈殿物の処理	サクシヨンポンプとトレミーを直結して吸いあげる。	鉄筋組立前	表9-17参照	表9-17参照	コンクリート打設	表9-17参照	表9-17参照	全工事期間中	表9-17参照	表9-17参照
作業内容	留意事項	内容又は方法																																																																					
掘削	ケーシングチューブの鉛直性	ケーシングチューブの圧入深さが10cm以上になると修正は難しいので、鉛直性は、掘削の初期に確保しなければならない。																																																																					
	ケーシングチューブの接続	ロックピンは、揺動運動でゆるむことがあるので、全部を均等に十分締付けておく。																																																																					
	ケーシングチューブの圧入深さと掘削深さの確認	掘削は、揺動及び回転と上下運動を繰り返し、摩擦力を軽減しながら原則としてケーシングチューブ内で行う。																																																																					
	孔内水位の管理	地下水位以下の砂層の掘削で、特に被圧地下水があるときは、孔内の水位を低下させるポイリング現象が発生し地盤を乱すので注意を要する。																																																																					
掘削中及び掘削完了直後	孔内泥水	表9-19参照																																																																					
	土質の性状	土質柱状図、サンプルとグラブがつかんできた土砂との比較。																																																																					
	掘削深さの確認	表9-19参照																																																																					
支持層	表9-19参照	表9-19参照																																																																					
掘削後又は鉄筋建込み時	孔底沈殿物の処理	沈積バケットにより処理する。孔内水と清水とを置換する。																																																																					
鉄筋組立て	表9-19参照	表9-19参照																																																																					
コンクリート打設	表9-19参照	表9-19参照																																																																					
全工事期間中	表9-19参照	表9-19参照																																																																					
作業内容	留意事項	内容又は方法																																																																					
掘削	孔壁崩壊防止対策（掘削速度）	土質に応じた適正な回転数と掘削速度を確保する。掘削速度が速すぎると孔壁の崩壊や孔曲がりのおそれがある。																																																																					
	掘削崩壊防止対策（水頭圧保持）	孔内水位と地下水の差が2m以上あるか確認する。給水と排水のバランスはよいか確認する。																																																																					
	孔壁崩壊防止対策（孔内水の比重）	適正な比重は1.02～1.08とする。																																																																					
	掘削孔の鉛直性	重錘パイプや必要に応じ掘削孔に適合したスタビライザを用い、掘削時はケーリーバの鉛直性を確認する。掘削孔の鉛直性は超音波測定器により測定する。																																																																					
掘削中及び掘削完了直後	孔内泥水	表9-17参照																																																																					
	土質の性状	土質柱状図、サンプルと吸いあげた泥水をろ過して得た土砂との比較。																																																																					
	掘削深さの確認	表9-17参照																																																																					
支持層	表9-17参照	表9-17参照																																																																					
掘削後又は鉄筋建込み時	孔底沈殿物の処理	サクシヨンポンプとトレミーを直結して吸いあげる。																																																																					
鉄筋組立前	表9-17参照	表9-17参照																																																																					
コンクリート打設	表9-17参照	表9-17参照																																																																					
全工事期間中	表9-17参照	表9-17参照																																																																					
604	表9-23中 17～19行2列 14行3列 15～16行3列 18～20行3列	表中の 表9-19参照	表9-17参照																																																																				
730	図11-54	グラフ中の縦軸 tf/m ³	g/cm ³																																																																				
732	12行	プルフローリングは、一般に、盛土の弱点を見出すのによい方法であるが、乾燥し固結した粘度など	プルフローリングは、一般に、盛土の弱点を見出すのによい方法であるが、乾燥し固結した粘度など																																																																				
734	図11-59	(単位一機械による作業)	(単一機械による作業)																																																																				
741	下から5行目	一般にマカダムローラは2～3km/h、タイヤローラは6～10km/h、振動ローラは3～6km/hが適当	一般にロードローラは2～6km/h、タイヤローラは6～15km/h、振動ローラは3～8km/hが適当																																																																				
819	最終行	(注) 技術委員会はすべて(社)日本建設機械化協会が活動している常設の委員かである。	(注) 技術委員会はすべて(一般社団法人)日本建設機械施工協会が活動している常設の委員会である。																																																																				